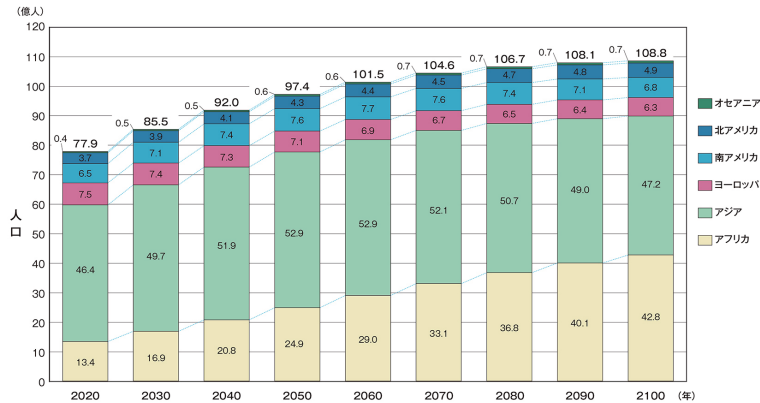
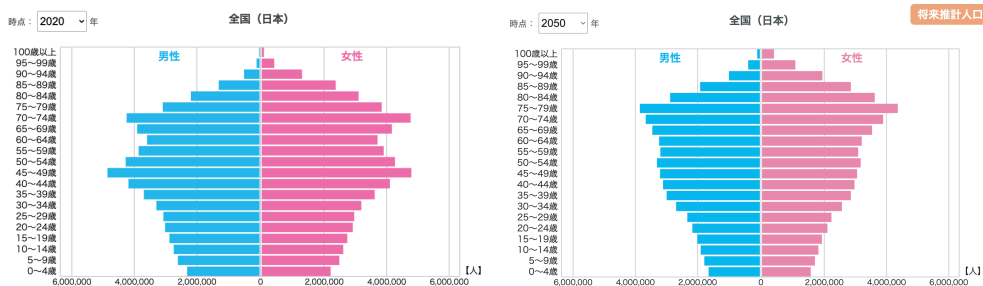


A 世界の人口・日本の人口

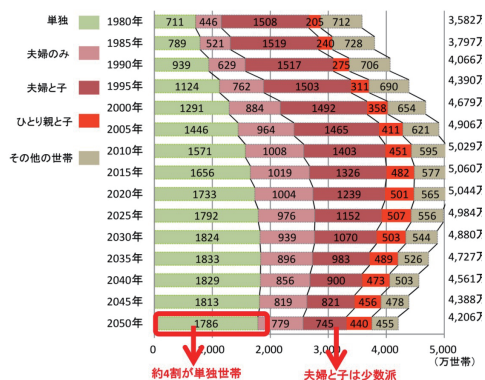
(A) 世界人口の推移と予想



(A) 2020年と2050年の日本の人口ピラミッド



(A) 世帯人数の推移



世界人口は今後も増加を続けると予想されている。日本国内では、壺型の形状が継続し、少子高齢化社会の人口分布が続く。これまで主流だった「夫婦と子」の世帯は少数派となり、「単独」世帯が増加していく。

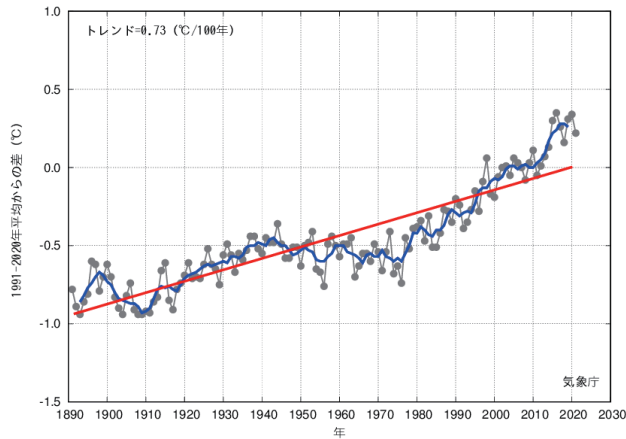
A: 世界の人口予測 (一般財団法人日本原子力文化財団) <https://www.ene100.jp/zumen/1-1-2>

B: 統計ダッシュボード <https://dashboard.e-stat.go.jp/>

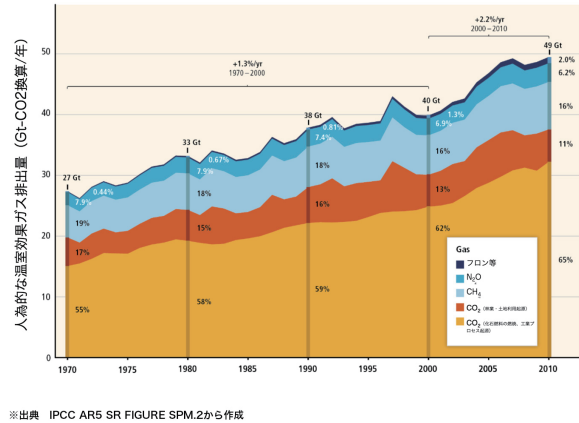
C: “人口動態・家族のあり方等社会構造の変化について”, 総務省, 2016年 <https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/content/000021332.pdf>

B 食と温室効果ガスと気候変動

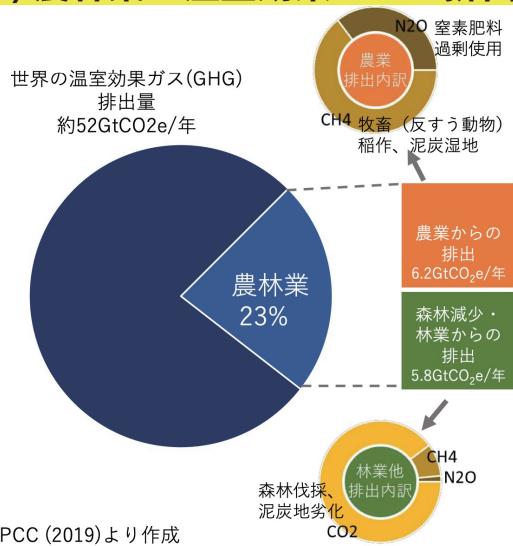
(A) 世界の年平均気温偏差



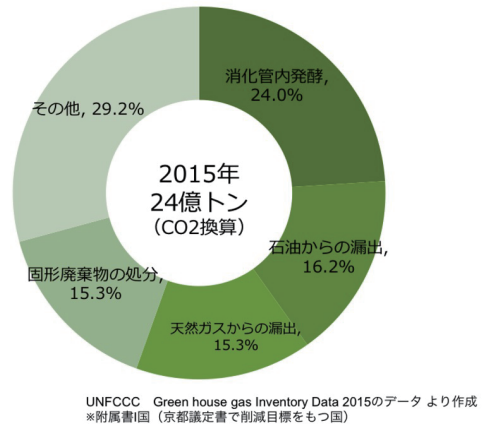
(B) 世界の温室効果ガス排出量



(C) 農林業は温室効果ガスの排出源



(D) 世界のメタン発生源



世界の年平均気温は上昇を続けており、気候変動に寄与している温室効果ガスの排出量も増加している。食料などを生産するために排出される温室効果ガスは、世界全体で総排出量の23%を占める。温室効果ガスの一つであるメタンの世界での発生源の割合を見ると、大枠ではエネルギー分野での発生が多いが、項目別には家畜（主に牛）の消化管内発酵（ゲップ）が24%を占めて一番多い。

A: 地球温暖化と十年規模変動 (気象庁) https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/mar_env/knowledge/ohc/hiatus.html

B: 世界の温室効果ガス排出量 (神奈川県気候変動適応センター)

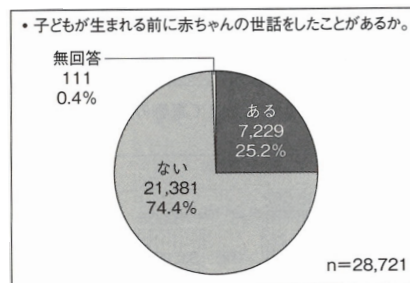
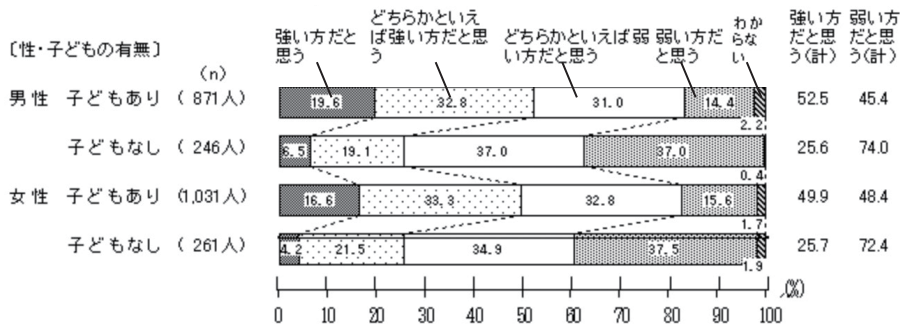
https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0323/climate_change/contents3/page1-3.html

C, D: 食卓とつながっている気候変動の影響 (IGES) https://www.foejapan.org/climate/event/PDF/210217_yamanoshita.pdf

C 地域との関わり

(A) 子どものいない人の、地域の人や赤ちゃんとのつながり

あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。



【資料4】 子どもの世話をした経験¹⁾

(B) 子どもと地域の人との交流と、地域活動への参加の関係

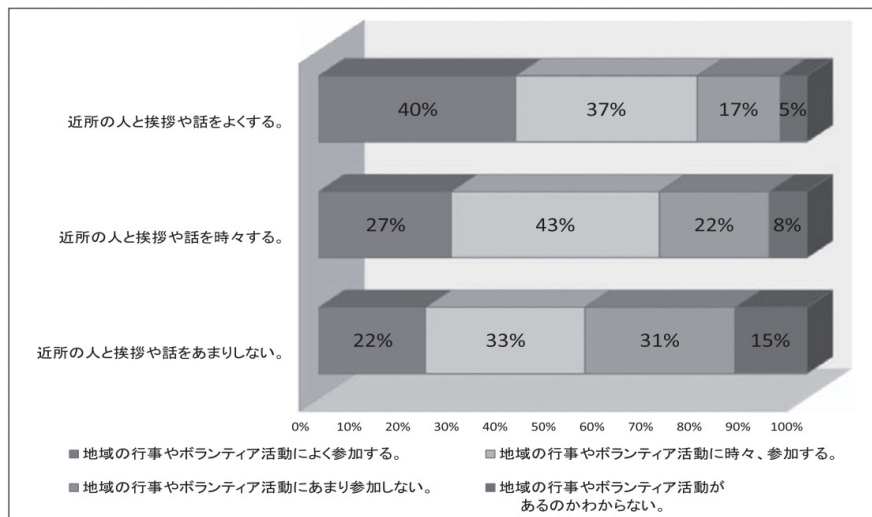


図2 子どもが地域行事などに参加する頻度とあいさつや会話をする頻度のクロス集計結果

男女共に、子どものいない人の方が、いる人に比べて地域の人とのつながりが少ない人が多い。また、子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をした経験のある人は 1/4 にとどまる。子どもがいなければ、地域の人や赤ちゃんとの接点はあまりないと言える。日頃から地域の人と挨拶や話をしている子どもほど、地域のおまつりなどの行事や清掃などのボランティア活動に参加する子どもが多い傾向にある。

A-1: 平成 18 年度 少子化対策と家族・地域の絆に関する意識調査結果 -7 地域とのつながり - 内閣府, 2006

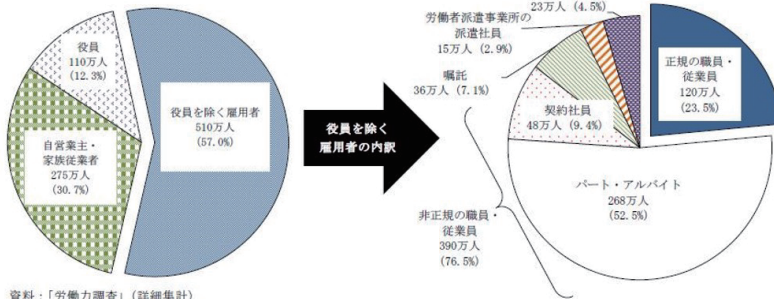
A-2: 子育て支援の効果の見える化と可能性 - 横浜市 3 歳児健診における養育者調査及びインタビュー調査報告書 -, 生協総研レポート, No.89, pp.24 (2019).

B: 地域における子どもの放課後の居場所づくりに関する基礎調査¹⁾ 弘前大学大学院地域社会研究科年報, 第 12 号, 2016

D 労働と余暇

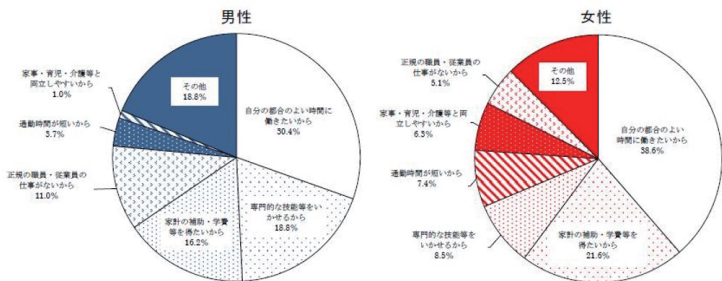
(A) 高齢者の就業率の変化

図9 従業上の地位別高齢就業者及び雇用形態別高齢雇用者の内訳（2020年）



資料：「労働力調査」（詳細集計）
注）割合は内訳の合計に占める割合

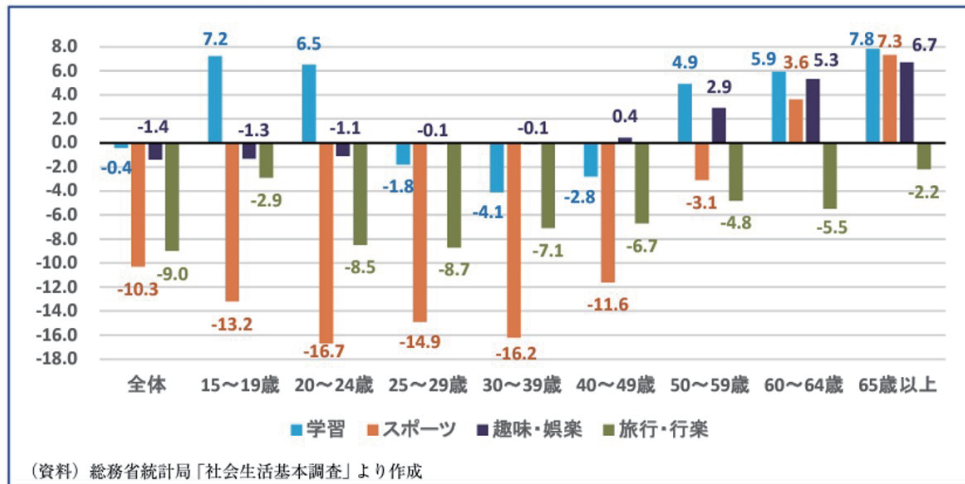
図11 非正規の職員・従業員の高齢雇用者が現在の雇用形態について主な理由（2020年）



資料：「労働力調査」（詳細集計）
注）割合は内訳の合計に占める割合

(B) 1986年と2016年における余暇活動の変化

図表5 年代別行動者率の変化



（資料）総務省統計局「社会生活基本調査」より作成

高齢就業者のうち、役員や自営業を除く「雇用者」は57.0%。そのうち76.5%が非正規の職員・従業員で、パート・アルバイトの割合が52.5%と最も高い。非正規の職員・従業員について主な理由は、男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最多。

若年層は学習を行う人が増えている。働き盛り・子育て期にあたる20代後半～40代後半まではあらゆる余暇活動が減少している。50代前半から高齢になるにつれて、余暇活動が増加傾向にある

A: 総務省, 2021年 <https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1292.html>

B: “国民の余暇生活はどう変化したか 社会生活基本調査にみる30年の余暇活動の変化”, みずほ情報総研, 2020年 https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/report/2020/pdf/mhir19_life.pdf

コミュニティ

健康 × まち

未来の地域コミュニティのあり方

人の生活の拠点

時を超えたつながり

いつまでも歩ける社会

土地があまり価値が下落

→より広い無駄なスペース

高建移動による人の分散

遠隔な人との触れ合い

定年の廃止

予防医療

基本オンライン診断

田舎で最新医療

家族の関係性

アンドロイドおじいちゃんおばあちゃん

パブリックなクラシル

メタバースで買い物・推し活

デジタルツインでの結婚

遠距離通院

死ぬまで楽しい人生

自動化

都市と交通

デジタルと AI

自動化と楽しみの関係性

AI 導入後の住み良いまちのあり方

人を不快にしない監視

電車の消滅

未来の沿線開発ビジョンの築定

政策の自動化

デジタル化と人の想いのバランス

モビリティパーソナル

家でドローンを操作し旅をする

思い出はデジタルで

自動化した車・食事・家事

都市の積化

自動運転 × 自然農業

自動運転

24 時間健康管理

個人に紐付いたナレッジ

どこでも発電

計算リソース完全クラウド化

EV

生き残るアナログツール

人とのつながり

孤独からの解放

時を超えたつながり

VRで押し活

教育の概念の変化

変化した建物利用

リアルでの人との集まりや場の提供が事業に影響するか

高齢化社会

オフィス街に子供と老人

高齢者が死なない

人口が多い

年金復活

外国人が増える

子供がたくさんいる

自動運転社会

自分で運転する人が暴走族扱い

移動中に勉強

自動運転車内でAIと対話

環境問題

再生エネルギーをきっかけに地方創生

野外を歩けない

空気の自動販売機

めちゃ暑い

環境問題は過去

未来の働き方

AIになんでも相談

高齢者が活躍できる場

VRで匿名で働く

ストレスフリーで平和

保育をロボットに代替

ストレスフリーは人間でいられるか

工場の自動化

米が高級食材

2050年の再生可能エネルギー

社会インフラ

優しい監視

育つまち 自律する「まち」 生成する「まち」 自然との共存

街中熱中症アラーム クマ退治センサー

未来予測の追い越し 職住近接 フリーアドレスな暮らし方

家が医者 運転手居眠り監視

多拠点

災害に適応するまち

都市と自然を味わうまち

ゴミの再利用

介護フリー 動物とも共に生きる

Well-being で新しい視点

離れた人とのリアルなシール交換

親の話を代わりに覚えるロボット

子供の置き去りゼロ

モビリティとインフラ

空飛ぶ車 渋滞のないまち 休みの分散 各国からの音楽セッション

自動運転 ストレスフリーな移動 世界を行ったり来たり

移動が簡単 物流の自動化

2050年におきうること	
1	世界の子どもの半数が近視になる。
2	AIを用いた数理生物学により、遺伝子の変化から病気の発症を極めて早い段階で予測・予防できるようになる。
3	独居高齢世帯が急増し、親族の助けが得られないことによる介護需要が拡大する。
4	細胞医療の国内市場が、2012年比で約280倍の2.5兆円規模にまで成長する。
5	80歳未満のがんによる死亡者がこの年までにいなくなる。
6	視覚障害者の数が世界全体で1億1500万人（現状の約3倍）に増加する。
7	自分の寿命や死因を正確に知ることが可能になる。
8	免疫療法によって、ほとんどのがんが治療可能な病気になる。
9	老化抑制や臓器交換、脳と機械の融合により、人類は不老不死に近づく（寿命150歳）。
10	カーボンナノチューブを用いた宇宙エレベーターが実用化される。
11	宇宙エンターテインメント市場が国内で約2兆円規模に達する。
12	先進諸国が温室効果ガスを1990年比で60～80%削減することに成功する。
13	気候変動が原因で居住地を追われる避難民や移民が、世界で2億人に達する。
14	外科手術をコンピューターが自律的に執刀するようになる。
15	コンピューターが教師の役割を代替するようになる。
16	自宅にいながら仮想空間で旅行を楽しむ没入型ツーリズムが一般的になる。
17	他者の脳の情報を読み取り、その感覚を疑似体験できるようになる。
18	日本が石油、石炭、原子力といった従来のエネルギー源に依存しない社会を実現する。
19	人間が人工知能（AI）ロボットと結婚する事例が現れる。
20	働く場所を選ばないスタイルが定着し、多くのオフィスビルが不要になる。
21	物理空間とサイバー空間が高度に融合した社会が到来する。
22	世界のアルツハイマー病患者が1億人を超える。
23	温暖化の影響で、アジアの10億人以上が深刻な水不足に見舞われる。
24	世界の温室効果ガス排出量が、この年までに2008年比で半減する。
25	海洋に漂うプラスチックごみの重量が、生息する魚の総重量を上回る。
26	パリ協定の推進により、化石燃料で動く自動車が公道から姿を消す。
27	街路樹数百分の空気浄化能力を持つ人工樹木「スマートツリー」が都市に配置される。
28	猛暑による死者がイギリスで年間7000人（現状の3倍）に増加する。
29	主要20カ国（G20）が協力し、海洋プラスチックの新規汚染をゼロにする。
30	気候災害による不作で、穀物価格が23%値上がりする。
31	世界人口の55%が熱波で命の危険を感じ、20億人以上が水資源の確保に苦しむ。
32	世界の約1000都市で、夏の平均最高気温が35度以上になる。
33	南極上空のオゾンホールが完全に修復される。
34	温室効果ガスの実質排出ゼロ（カーボンニュートラル）が達成される。
35	水素製鉄法の導入により、国内の鉄鋼メーカーが脱炭素を完了させる。
36	急激な温暖化により、森林がCO2を吸収できず逆に放出し始める臨界点に達する。
37	省エネ建築の普及により、世界のCO2排出量を最大61%削減できるようになる。
38	ハワイにあるビーチの約4割が消失の危機に直面する。
39	世界遺産に登録されている氷河の3分の1が消滅する。
40	完全な脱炭素化により、世界のエネルギーコストが約1700兆円節約される。
41	卓上サイズの「食用培養肉」自動生産装置が一般家庭に普及する。
42	食器洗いや子守りといった日常的な家事がロボットの仕事になる。
43	太陽光や風力などのクリーンエネルギーが豊富に供給されるようになる。
44	脳の電気信号をロボットに送ることで、人間が身体や空間の制約から解放される。
45	インドの人口が15億人に達し、世界最大の経済市場へと成長する。
46	海洋資源の枯渇により、商業的な漁業を続けることが困難になる。
47	パリと東京を2時間30分で結ぶ、排出ゼロの超音速旅客機が運用を開始する。
48	働く世代1人が高齢者1人を支える「肩車型社会」へと移行する。
49	全国の居住地の6割以上で人口が半減し、そのうち2割が無人化する。
50	スマートフォンやPCの普及率が0%になり、次世代のウェアラブル端末に交代する。